



全国保健師長会

平成28年度全国保健師長会 市町村部会活動報告

## 全国保健師長会加入促進に向けて

～支部活動の実態調査を今後の糧に～

平成29年3月

全国保健師長会

市町村部会

## 目 次

- I はじめに
- II 調査目的
- III 調査方法
- IV 調査結果
- V 考察
- VI まとめ
- VII おわりに

### \* 参考

- 1. 調査票

## I はじめに

全国保健師長会では、市町村の会員拡大に向けた取組として、未加入自治体の加入促進を最重点活動目標に掲げ活動を図っている。

平成28年度全国保健師長会の自治体加入率（総務省統計局による自治体数のうち、当会に1人以上加入している自治体の割合）は、市町村44.5%、都道府県100%、政令指定都市88.9%で、市町村の加入率が低い状況が続いている。

この状況を踏まえ、平成27年度に各都道府県支部の加入促進に係る実情や市町村保健師の加入状況把握及び分析を行った結果、各支部の加入促進に係る工夫や取組みを行っていることが明らかになった。

そこで、昨年度に引き続き、全支部長を対象に、会員の加入促進に係る取組み状況を把握するためのアンケート調査を実施したので報告する。

## II 調査目的

全国の支部の加入促進にかかる取組み等について、更なるアンケート調査を実施し、好事例の情報発信や加入促進の資料にするとともに、会員の拡大につなげることを目的とする。

## III 調査方法

### (1) 調査対象

全国保健師長会の62支部（全支部） 支部長  
（都道府県 47、 政令指定都市 14、 特別区 1）

### (2) 調査期間

平成28年11月9日～11月22日

### (3) 調査方法

調査票は、Excelデータで作成した自記式質問紙をメールで送信し、メールで回答を求めた。

### (4) 調査内容

調査内容は、①会員要件 ②年会費 ③会費の使途 ④支部活動（部会活動、交流会、研修会等）⑤周知啓発活動（ニュースレターの等の発行状況）⑥加入勸奨手段 ⑦活動に関心を持ってもらうためのアイデア ⑧自由意見とした。

### (5) 倫理的配慮

調査対象者には、趣旨を理解し、調査への協力は対象者の自由意思で決定してよいこと、調査で得た情報は、研究以外の目的で使用しないこと、調査結果を全国保健師長会の活動報告書やホームページ等で公表することなどを文書に明記した。研究協力への同意は、調査の回答をもって得られたこととした。

また、個人名・自治体名・機関名等が特定されないよう、プライバシーの保護を遵守し、好事例については同意の上、公表することもあることを文書に明記した。

## IV 調査結果

調査対象の62支部のうち、58支部から回答を得た。(回答率93.5%)

### (1) 会員要件 (入会者の役職)

会員要件に関する回答結果は、図1のとおりである。

会員要件については、係長以上の支部が76%を占めている。

役職の定めはなく、指導的立場や保健師を統括している者を要件とする支部が2支部、条件なしが3支部あった。

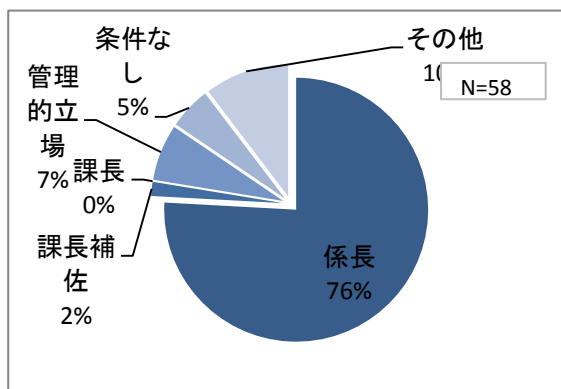


図1 会員要件

### (2) 支部の年会費

支部年会費については、3,000円の支部が最も多く、次いで5,000円、2,000円となっており、あわせて全体の約75%となっている。

支部の運営状況の改善や会員加入促進を図るねらいから、年会費を下げた支部は6支部あり、もともと会費を少なく設定していた支部で、支部活動を拡大するため会費を増額したところが1支部あった。

会費は自己負担のところが多いが、7か所の支部から公費負担の市町村があると回答があった。

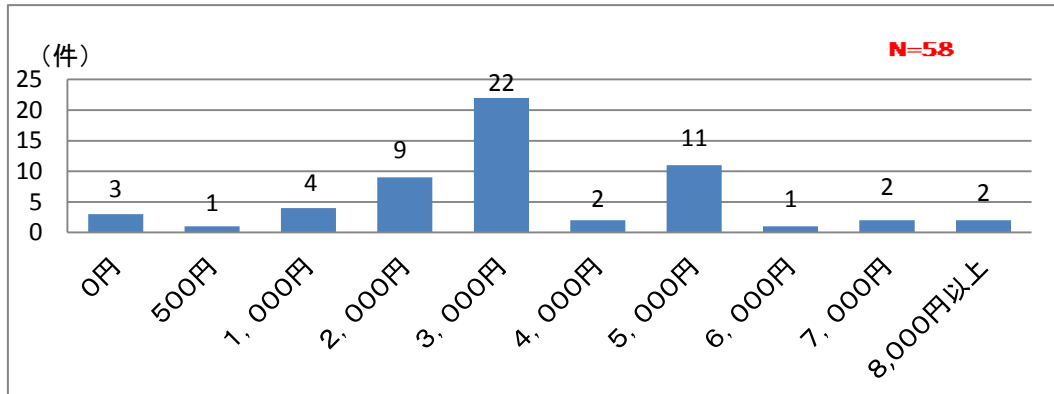


図2 支部の年会費

### (3) 支部からの研修への補助

支部会費で研修等の参加費用を補助している支部が約7割を占めている。(図3)

補助額(率)については、全額と回答した支部が7か所あり、8割6割と制限している支部、交通費のみ、日当程度、適宜相談の上決めるなど様々であった。

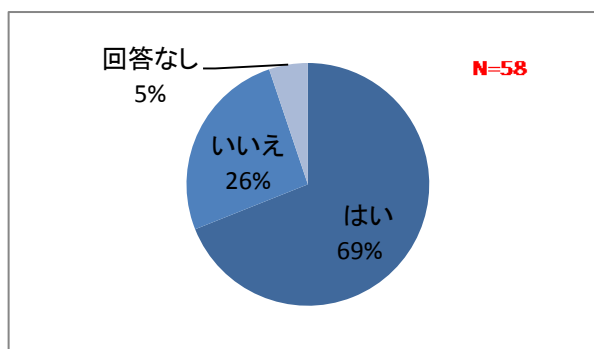


図3 支部会費の研修への補助の有無

#### (4) 支部活動等について

##### ①部会活動

支部活動において、役員会以外の部会活動がある支部は、全体の21%となっている。(図4)

その内容としては、事業別に研修、広報、懇親会担当部会、所属別に県職員部会、市町村部会、政令指定都市・中核市部会等が主なものとなっている。政令指定都市では、月1回定例会として情報交換、研究、研修会を開催しているところもあった。

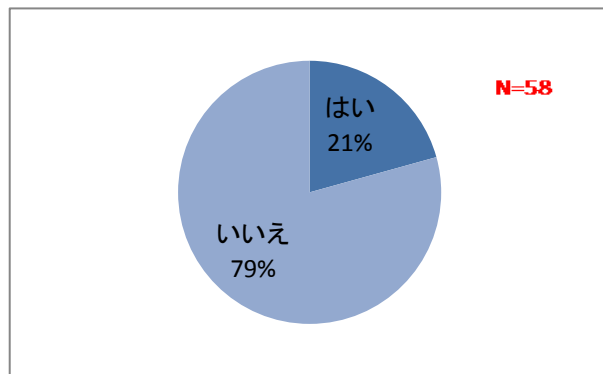


図4 役員会以外の部会活動状況

##### ②交流会（懇親会）の実施

会員相互の懇親を深めるための交流会（親睦会）については、図5のとおり、全体の60%（35支部）で開催している。

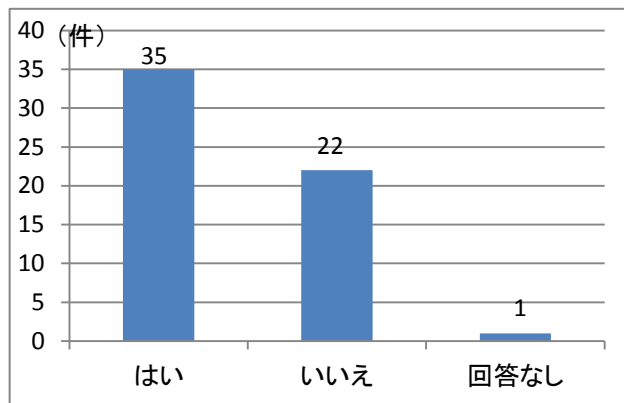


図5 交流会（親睦会）の実施状況

##### ③魅力ある支部活動のため工夫していること【自由記載】

研修に関する内容	会員の要望を反映させた研修会等の実施に努めている。
	講演等をいただいた講師等の他、看護協会等の関係機関に送付している。
	時には、保健師の自主研修会と保健師長会の研修を共催で開催。支部の研修会は、非会員の若い保健師にも声をかけ若い世代も出席しやすいようにする。(政令指定都市)
	総会の開催と研修会の開催を実施する。総会やブロック研修の報告書を作成し周知する。
	会員にとって魅力ある情報提供や研修になるように、いろいろな意見を聞きながら行っている。
	支部で年2回研修会を企画し、実施している。
	その際の会員の参加は無料、会員以外は500円の参加費を徴収。
	研修会の内容テーマの選定には、会員の希望や時の話題等を取入れて参加を促している。
	研修会の開催にあたって、市町村の役員の意見を聞き、内容に反映させている。退職者への花束贈呈なども行っている。
	年1回の支部研修会は、希望する内容についての意見を聞き、多くの保健師に参加してもらおうようにし、研修会にあわせて交流会を行い、その年の新規採用保健師の紹介なども行っている。(政令指定都市)
	研修内容の充実 地域保健に係る最新情報の提供。
	テーマを決め、テーマに沿った研究会や研修会を開催。(政令指定都市)

【魅力ある支部活動のため工夫していること】 つづき

<p>研修に関する内容</p>	<p>支部会費で、1名分の県外(H28年度は、東北ブロック研修)研修への旅費を補助している。 (旅費:全額、宿泊費:定額) 役員会時に保健活動についての情報交換や役員の親睦を深めるため役員会後に昼食会(年1~2回)を開催している。 離島の会員への研修旅費を年1~2名程度助成している。今年度より県外研修費の旅費を助成する事業を開始した。</p>
<p>会員相互の交流情報交換関係づくりに関すること</p>	<p>圏域で先輩保健師の送別会を兼ねて、会員、非会員一緒に集う機会をつくっている。この会に市部会の補助を活用し保健師長会のPRの時間を持っている。その際の幹事は県、市町村から1人ずつ担う形で、参加率が良い。若手保健師に保健師長会の存在を伝える良い機会となっている。 総会後に退職保健師の送別を兼ねて、会員の親睦会を実施している。会食をしながら、楽しく情報交換を行う場となっている。 総会報告会を設定して、顔合わせ、情報交換の場を設けている。 職務や役割を同じくする仲間とともに、実践の振り返り、これからへの想い等を語り合う機会を大切にしている。年度末に定年退職された先輩にアドバイスを頂く機会を企画した。(総会にあわせて計画したが都合により実現できず) 支部長会や全国およびブロック研修等における最新の情報や業務の参考となる情報等を適時に提供できるよう努めている。 毎年、会の活動テーマを決め、市内各区においても活動目標を定め提出を求めている。また、テーマに関連した研修会や会員相互のグループワーク、職場討議を実施し、年度末には実践活動を評価している。各区における取組状況については、次年度以降の活動の参考となるよう、24区に還元している。(政令指定都市) 総会では役付きになった新会員を紹介し、歓迎する。7月には毎年懇親会を開催し、会員以外の保健師全員に参加を案内、新採用保健師と指導保健師が紹介と出し物を演じ、歓迎を受け先輩と知り合える場としている。8区の保健センターごとに2課4係保健師の合同研修会を実施、会員外にも会から1人500円ずつの補助をして保健師相互の情報交換と親睦の場づくりをしている。(政令指定都市) 会員のスキルアップとともに同係(課)同志の情報交換(グループワーク等)を通して、モチベーション向上のための活動を企画している。 支部研修会では、必ずグループワークを設け、県・市町村を超えて会員間の情報交換や交流を図っている。 年4回、業務状況の情報交換等を行う勉強会を開催し、参加者が業務内容に限らず担当者の負担感等までも共通認識して、互いに支援し合える関係づくりの場となるように努めている。</p>
<p>看護協会との連携</p>	<p>看護協会と共催で研修の企画をした。 県看護協会保健師職能部会と連携し動いている。 公開講座を開催し、会への理解促進を図っている。 ニュースレターを講演等をいただいた講師等の他、看護協会等の関係機関に送付している。</p>

④管理職に特化した研修会の有無 (行政、看護協会を除く)

別組織での管理職に特化した研修があると回答があった支部は8支部であった。(図6)  
内容としては、保健師に係る任意団体が主催する研修、自治体内部の保健活動従事者現任教育ガイドラインに基づく管理職研修、係長研修等となっている。

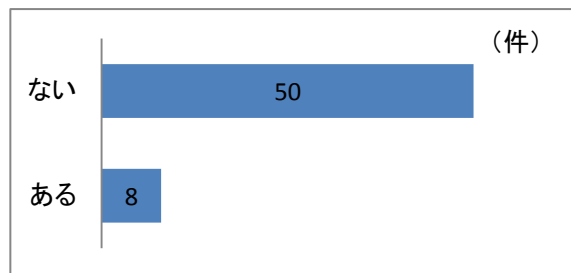


図6 管理職に特化した研修会の有無

## (5) 周知啓発活動

### ①支部だよりの発行

支部だよりを発行している支部は13支部で全体の22%となっている。(図7)

ほとんどは、会員向けに発行しているが、県内市町村向けに発行している支部が1支部ある。

発行回数は1回が最も多く、3回までの発行が11支部で、8回発行している支部が1支部ある。(図8)

支部だよりの発行の目的は、全国保健師長会の動向、活動報告、支部活動の紹介(研修会の報告、役員紹介)など全会員と情報共有することがあげられている。また、県の面積が広く、移動に時間がかかるため、会員の集合が困難な面を補う手段として、支部だよりの効果を感じるという意見があった。

今後、支部だより等の発行予定があると回答した支部は15か所で、ないという支部は42か所だった。

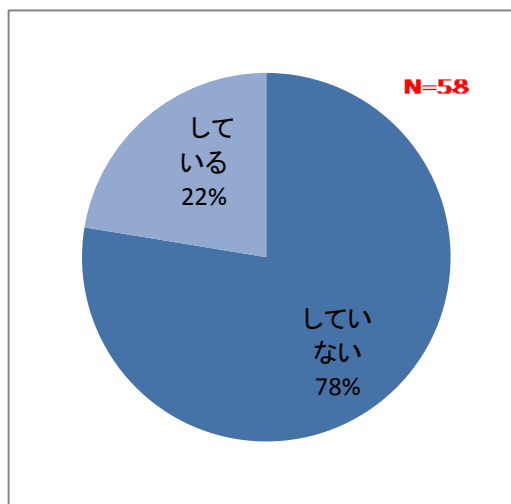


図7 支部だよりの発行

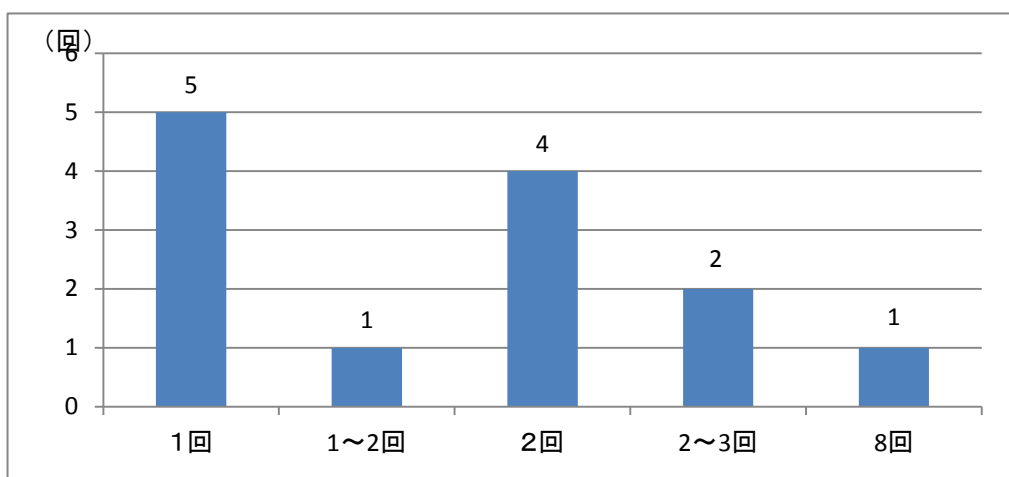


図8 支部だよりの発行回数(年)

### ②全国保健師長会のパンフレット活用状況

会員の加入促進を図るため、全国保健師長会作成のパンフレットを活用している支部は42支部(75%)となっている。(図9)

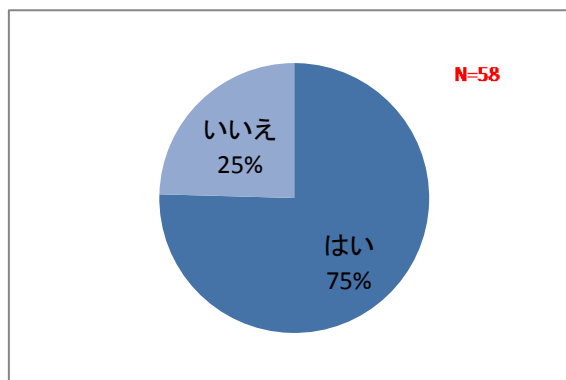


図9 パンフレット活用状況

## (6) 加入勸奨手段

### ①加入者を増やす工夫

加入者を増やすための工夫をしていると回答した支部が54支部（95%）で、ほとんどの支部が何らかの入会案内をしているという結果であった。その内容は、保健所からの紹介、昇任時に声をかけるが多く、自由記載では、加入市町村以外にも研修案内や活動報告を送付し参加を呼びかけたり、情報提供をしている。（図10）

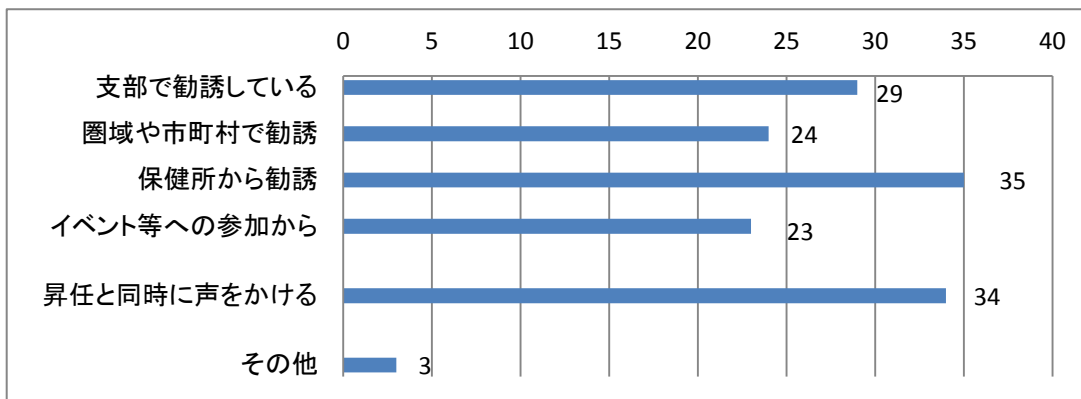


図10 加入者を増やすための入会案内手段(複数回答)

### ②加入促進のために実施していること (自由記載)

国民健康保険連合会(定年退職した保健師の「在宅保健師の会」を所管)や保健師教育機関にも入会案内の声かけや通知をしている。
支部会員から身近な人への入会案内、研修会通知を県内施設に送付。
未加入市町にも全国保健師長会支部だよりの送付、研修会開催案内を送付している。
23区の代表が集まる会議で周知し、会員を募っている。
現在、係長以上の職員は全て加入しており、「係長になったら加入するもの」と認識されている。
本年度試行的に非会員(管理期・リーダー期保健師等)に研修参加(無料)を呼びかけ、講義、グループワークを共有。
・県、市町村により、昇任、リーダー職発令等のタイミングでの声かけ等の工夫を情報交換。
会の活動に関心を持ってもらうため、未加入の市町にも活動状況等について情報提供している。
県は加入対象者が自然減の状況。加入をお願いするチラシは作成しているが、効果はない。市町保健師協議会からも加入を働きかけてもらうことで、加入者が少し増えた。
保健所:主査以上 市町村:管理的立場の方が多い。
都道府県主催の保健所と市町村の統括保健師を対象とした研修会でもPRしている。
役職がない保健師についても「賛助会員」として、基本的に全員加入してもらっている。
県職員は、原則会員となることを浸透させているが、市町村は個々に県保健師から案内しているため、新たな入会数がほとんどない状況。
支部研修会は会員以外の市町村へも通知し、研修会の参加と入会を促している。
県職、政令市、市町村部会から幹事を選出し、毎年4~5回の役員会と3回程度の研修会(総会含む)を開催しており、随時、市町の会員拡大に努めている。
係長職に昇進した年度に自動的に加入。年度当初の総会で紹介している。
研修会に会員以外も参加できるようにしている。
研修会を公開講座として、会員以外を参加できる機会を作り、師長会の活動の理解を進めている。(イベント等に該当)
県部会の交流会の案内や総会の案内の際、係長に昇進した保健師に声をかけている。
係長昇格時に先輩保健師から入会案内を依頼
市町村の場合、他の市町村の保健師が昇任しても把握できないので、保健所が圏域の名簿を作成する際に該当者に声かけをして欲しい。



### ③新規加入市町村の有無と勧誘方法

新規加入市町村があった支部は20支部（35%）となっている。

（図11）

新規加入市町村にどのような入会案内を行ったかについての回答（自由記載）は下記のとおりである。

（6）①のアンケート結果と同様に個別に案内しているところが多く声かけを行っている部署は保健所が中心となっている。

研修会や親睦会、仕事など機会ある毎に声をかけるなど粘り強く入会案内している。

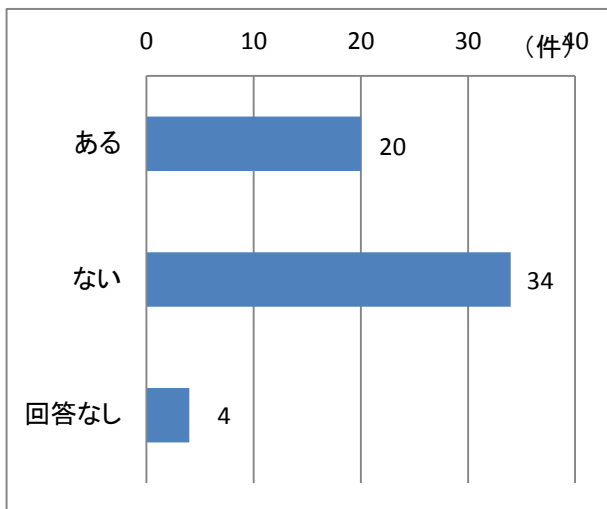


図11 新規加入市町村の有無

### ④新規加入市町村に行った入会案内方法 【自由記載】

新規加入 があった 支部の 案内方法 (15支部)	市を管轄する保健所の総括保健師が、電話や面接等を通じて案内した。
	管轄保健所から加入をすすめられた。県支部の役員になったので加入した。
	加入促進用パンフレットの送付と電話連絡で案内している。
	管轄保健所の管理職からの案内。
	保健所が案内した。
	市町村の管理的立場の保健師や保健所からの案内を行っている。
	親睦会や仕事で同席となった時などに、毎回声をかけ、誘った。
	支部長ならびに保健所から案内した。
	研修会への参加を勧めるなどして、全国保健師長会会員のメリットを説明した。
	係長・主幹級に昇進した保健師に対してブロック連絡員等が個別に案内している。
	機会あるごとに案内している。最終的には個別に案内し本年度新規1名の入会を得た。
	地域振興局・支庁単位で行う統括保健師連絡会で案内している。
保健所が全国保健師長会パンフレットを活用し市町の統括的役割にある保健師を通じて案内している。	
保健所からの継続した案内を行っている。	

### （7）市町村保健師に関心を持ってもらう方法・アイデア 【自由記載】

研修に 関する こと	市町村が担わなければならない事業に関する研修内容とする
	映画の上映会をオープンで実施した。（非会員からは参加費を徴収）
	お土産やランチやスイーツ付の研修会やグループワーク、学ぶだけではなく、様々な会員と楽しく過ごせる時間にする。
	統括保健師の配置が進む中において、その役割についての研修会の開催、研究の推進、相談体制の整備（活動支援）などがあると良い。
	魅力ある研修会の開催。 1度、師長会の研修を無料にし活動に関する理解を深めてもらう
まずは参加してみたいと思える研修を企画し、そこに来ていただいて保健師長会の活動をPRし、入会を勧めるなど。	

(7) つづき

研修に関する こと	県保健所と管内市町の保健師と一緒に研鑽する地域保健保健師等研修会や業務連絡会を実施している。
	加入市町村でなくても、市町村部会の中での研修に声をかけ、管理職としての悩みや情報共有できるように工夫している。
	懇親会など、世代交流できるような活動や研修会の開催。
	全国やブロック単位の研修会に旅費の補助などがあれば追い風になる。 全国研修会やブロック研修会の魅力ある内容など
入会案内 PR 方法	口コミ
	未加入の市町には、近隣市町からも声かけをしていただき職能団体としての意識を共有していけたらと思う。
	会員となるメリットをPRする事。
	全国保健師長会及び各支部の活動内容について、さまざまな方法で市町村保健師にPRしたり、日頃から管内全体の統括的役割の保健師間の情報交換の機会をもち、繰り返し説明を行う。
	・県保健所と管内の市町の保健師と一緒に研鑽する地域保健保健師等研修会や業務連絡会を実施している。 ・同伴訪問等、一緒に活動する。 ・保健所主体で市町村統括保健師連絡会を開催し、情報共有及び連携を図っている。 ※普段の連携や情報共有、コミュニケーション等が大事と思う。 ・ワークショップへの参加(今年度、薬剤師会主催のワークショップへ若い保健師への出席依頼があり、参加予定)
	未加入市町村にも全国師長会ニュースをメールで送付する。
	管理的立場にある保健師がいる市町には今後も研修会への参加や会員としての入会をすすめていく。
	できるだけ職場で声をかけあって加入を勧めることが大切と思う。
	未加入市町村の統括保健師にあたる人に「市町村を代表してまず貴方に入ってほしい」と声をかけている。複数加入には至らないが、退職しても後任者が継続して加入されている。
	保健所管内の統括保健師の会等で、活動の周知、入会案内を継続していきます。
	顔なじみの会員が未加入市町村の管理職へ声かけする。
	支部では、加入促進のための特別な取り組みはしていませんが、昨年度45名だった会員が今年度は55名になりました。各所属に於いて積極的に声をかけていただいたことが、加入者の増加につながったように思います。
県の統括保健師のリーダーシップのもと、各保健所毎に市町村統括保健師等との連絡会を持つ等、日々の連携・先行事例の情報提供・意識啓発を行っていることが、会員増加につながっている。	

(8) 意見

入会の慣例化	役職等についたら、入る慣習となっているようで、加入率は高い。
	本市では、係長級以上の保健師は全員加入しています。
	当方は、管理職になったら必ず加入する事になっている。
会の運営 今後の展望	県と管内市町村との接点が少なくなっている現状から、全国保健師長会からの通信などをきっかけに連絡を密にとれるようにできたらと思います。
	調査研究事業の結果報告書等本会の取組みについて、自所属・自身の課題と関連づけて理解し実践に反映できた事例、仲間の声等を身近に感じられるような報告、紹介等の工夫。 本県では、市町村と県で2年ずつ交互に支部長を担うようになり、こうしたことも市町村の加入促進につながるかと思う。
	各所属の現任教育体制、管理的立場にある保健師の取組み等が影響すると考えるため、相互の情報交換、交流等の機会が大切だと感じている。 県・保健所単位の会議や研修、看護協会保健師職能委員会活動と連動させるよう、取り組むことも有効かと思う。
	会員・非会員を問わず、保健師の人材育成についてはみんなが心配しており関心がある。そのことを話し合う機会が業務上にはないため、保健師長会は身近で語り合い、仲間と今後を考える場として活用できるのではないか。
	今後、市町村において統括保健師が増えていくと増加に繋がるのではと感じている。
	加入のメリットを伝えるためにも、全国保健師長会の活動をホームページやニュースレターで、未加入の市町村へ伝えていく。
	ブロック交流会の予算を確保し、ブロック毎に非会員も含めた交流会等を開催している。
課題 悩んでいること	「保健師長会」という名称が誤解されやすいと思います。市町においても保健師が分散配置され、「師長」というような職務や肩書きはないので、勧誘には毎回、会名称の説明が必要になっています。
	20年以上の方に声かけをしても管理職級じゃないからと断られている状況で悩む。
	昨年度のアンケートでも業務多忙で、時間外の活動が困難という意見が多くあった。小規模市町村であればなおさらそうだなと思います。最近は保健所の職員でも継続加入いただけない方もいるので、大変難しい時代になったと感じる。
	支部長は、県統括が充て職のため、加入促進活動には限界がある。 県も市町も「保健師協議会」を中心に活動、研修を行っており、現時点では、更に団体活動をオンすることは困難と考えている。
	ありとあらゆる機会を通し、周知、入会案内を続けているが、市町村保健師の賛同を得ることは難しい。加入促進に向けて、他支部の取組を参考にさせていただきたい。
	市町村については、「市町村看護職員協議会」への参加と活動が活発に行われているため、保健師長会への参加の必要がないと言われる。管理職に特化した研修やサポート体制が必要だと考えているところ。
	本県の場合、市町村は「保健師研究協議会」にもは全員加入しており、小規模自治体では両方に加入する事が負担になることや、研修会等はどうしても県南開催が多くなり、小規模自治体の所属する県北空アクセスが不便な事や、小規模自治体ほど休日の公務が多く参加しづらい事もあり、加入促進の取組の困難さを感じています。
	周辺市町が加入しているか存じあげない。看護協会支部役員等になった場合くらいしか周辺市町の保健師と親しく交流する機会がないので、入会案内することも困難です。
	地域的に会員が少ないところがある。また、退会し会員が0という市町が増えてきた。(20市町のうち6市町が未加入)県からも継続入会について依頼してもらっているが、なかなか加入につながらない。

## (8)つづき

会の意義 メリット等	この会に参加することでメリットを伝えられるかどうか、各市の実情の中でどのように伝えるかが課題。
	全国保健師長会支部活動が魅力あるものとしていく必要があると思っているが、良いアイデアがなく、会員全体での運営ができず苦慮している。 世代交代が進む中、相当の役職に就いても入会を拒む方もおり、会員数を確保することも困難になってきている。
	全国保健師長会の役割や活動を伝えきれていないのが悩み。
	市町保健師に入会のメリットをどう伝えていくか、また加入後に魅力を感じてもらえる会のあり方について今後も支部で検討する必要あり。
	保健師長会が会員にとって、どのような役割を果たすのかを明確にすることが大切だと思う。

## V 考察

### (1) 入会者の役職について

全国保健師長会規約における会員については、保健師長の職又は保健師長の業務を担当する職にあるもの、本庁保健師業務を総括するもの等の規定があり、各支部ではこの要件を加味して、各自治体の保健師の状況に応じて入会していると考えられる。今回の調査では、会員は係長以上が75%をしめている。係長級は保健師業務の実践においては、後輩の指導的立場を担う保健師として重要な職位にある。将来、保健師長としての役割を担う上からも係長からの入会は有意義なものと考えられる。

### (2) 支部年会費について

支部年会費は、2,000円～5,000円で全体の75%を占めている。多くの支部が資金繰りには苦心しており、研修会の費用削減（会場費、講師謝金の交渉、非会員には実費負担等）を図る、役職ではない保健師から賛助会費徴収、課長、副参事等の役職から特別徴収などを行う支部もある。1,000円以上の会費を設定している支部の多くは会員が研修に参加しやすくするために、交通費などを補助しており、会員の自己研鑽の機会付与に努めていることがうかがえる。

### (3) 支部活動等について

支部活動のなかで、役員会以外の部会活動がある支部は全体の20%で、研修や広報など事業別の部会、地域ごとの部会、所属別の部会などが主であり、各部会が役割を持ち、支部活動が円滑に進められ、活性化に役立つものと考えられる。

魅力ある支部活動のため工夫していることについては、研修会の内容の充実を図ることをあげている支部が多く、あらためて保健師長会の意義が会員のスキルアップを図るためにあることを感じさせるものとなった。

また、会員相互の交流、情報交換を行ないながら、互いに支えあう関係性を築く機会の重要性についても記載が多く、保健師活動のモチベーションを保つ上で重要な取組みと考える。看護協会との連携を図っている支部もあり、こうした取り組みも保健師長会の活動を周知する機会となると思われる。

### (4) 周知啓発活動（支部だより）について

支部だよりを発行している支部は12支部あり、発行回数は年1～3回が多い。ほとんどは会員向けに発行されており、会員外に発行している支部は1支部であった。

昨年度の調査で、「保健師長会の活動内容を知らない」、未加入の理由も「活動を知らないから」というものが多く、周知啓発の課題を感じさせる結果であった。支部だよりは活動を広報する手段として有効と思われるが、会員向けとなると対象が限定される。

支部だよりを発行する目的、効果については、研修会の欠席者や役員以外に研修内容や会の活動状況を報告すること、また支部の圏域の面積が広くなかなか集まることのできない不便さを補うツールとして活用している様子もうかがえた。

また、保健師長会作成のパンフレットの活用については、ほとんどの支部で活用していると回答があり、入会案内時にパンフレットを渡し説明に役立てている。

## (5) 加入者を増やす工夫について

加入者を増やす工夫をしている支部は95%で、ほとんどの支部で何らかの取組みを行っている結果となった。働きかけは、保健所や支部から入会案内している、昇任時に勧誘などの個別対応や研修等を活用したPR、政令指定都市などは同一自治体内で昇任が把握でき、声かけがしやすい面が見受けられた。

## (6) 新規加入の有無と勧誘方法

新規加入があった支部は20支部で、(5)の加入者を増やす工夫と同様、個別に働きかける方法で、地道に粘り強く働きかけたことが入会に結び付いたようであった。様々な機会を通して繰り返し話したり、会員の役割、メリットなどを伝えることが、加入に消極的な保健師の後押しをしたものと思われる。

## (7) 市町村保健師に関心をもってもらう方法・アイデア・意見

未加入市町村に関心をもってもらうためのアイデアとして、研修に関すること、入会案内手段、会の運営などの面からご意見をいただいた。

### 【研修・懇親会等に関すること】

研修に関しては、魅力ある研修を企画するということが重要という意見は多く、市町村に特化したテーマ、映画の上映、統括保健師の話題などを取り上げることや単に学ぶということだけではなく、楽しみの要素を取り入れることの提案があった。会員同士が気軽な雰囲気話し合える場を設定することで、会員の緊張感も和らぎ仲間づくりにつながる効果も考えられる。

また、平成27年度の当部会の未加入市町村に対する調査では、統括保健師に対する考え方が入会に影響を与えていることが推察されたことから、保健師長会として市町村の統括保健師を支援していく役割も重要だと考えられる。

### 【入会案内手段に関すること】

入会案内手段としてこれまでも行ってきた個別の案内については、顔なじみのある会員による案内、各保健所管内毎の統括保健師間の勧誘など、誰が誰に声かけをするのが有効かを考え、工夫をしている様子がうかがえた。

また、特に都道府県支部からは「保健所と市町村がともにスキルアップする雰囲気が重要」との意見もあり、現場の保健師同士のつながりも影響すると考えられた。

### 【会の運営面・今後の展望】

県と管内市町村との接点が少なくなっている現状から、相互の情報交換、管理的立場の保健師の取り組みは影響が大きいことから、保健師長会の存在意義を感じる意見がある一方で、この会に参加することのメリット、役割を伝えられないという悩みを抱えている意見もあった。多くの支部が、会員にとって魅力ある活動を模索しているところだが、なかなか答えが見つからないジレンマも感じる。

## VI まとめ

(1) 市町村の加入促進の取組みについては、個別の案内を中心に、ほとんどの支部で行っており、新規加入があった市町村も同様の案内方法をとっている状況であった。個別の案内が地道ではあるが、一番効果的な方法であると考えられる。

前回の調査において、統括保健師への意図した働きかけの必要性が指摘されたが、今回の調査でも統括保健師の重要性を指摘する意見があり、今後、市町村の統括保健師配置が進むことで、加入促進も進めやすくなることが期待できる。

(2) 前回の調査では、未加入市町村は、保健師長会の名称は知っていても活動内容を知らないという状況があることがわかり、活動の周知啓発の重要性が提示された。

今回の調査でも、様々な研修会や保健師の連絡会などあらゆる機会にPRしている、支部だよりや保健師長会パンフレットを活用するなど各支部で考え得る周知活動は実践されている。支部だよりは、会員向けの発行が多かったが、未加入の市町村にも発行することも効果はあるのではないかと考えられる。

(3) 個別の案内、様々な場面でのPR活動においては、保健師長会に加入のメリットを伝えきれていないという課題が、前回の調査、今回の調査を通して出ており、これは勧誘を行う際の基本となるものなので、加入会員が様々な活動で得られるメリットを自覚していく必要がある。

各支部から、全国保健師長会の理念に基づいて、社会情勢を踏まえた研修の開催や、会員の交流を深めるための懇親会など、楽しむ要素を加えた活動が魅力ある活動として提案があった。自身の自己研鑽と仲間とのつながりはこの会の基本となることなので、継続的なテーマとなると思われる。また、統括保健師を支援する目的の研修会の開催や相談体制を設置することも保健師長会としての大きなメリットではないかと考えられる。

こうした活動を通して、加入会員が得られる情報や会員相互のつながりなどメリットとなる部分を認識しながら、未加入市町村に働きかけられるかどうか加入促進の大きな要素であることが明らかになった。

## VII おわりに

今回、昨年度に引き続き、全国保健師長会の重点目標である未加入市町村の会員拡大を目的とし、未加入市町村にどのような場で紹介を行い、どんなPRが有効か、さらに魅力ある支部活動や現在抱えている課題など様々な観点から加入促進について検討した。

加入促進活動については、個別の働きかけ、様々な研修会や連絡会などあらゆる機会での会の活動、入会についてPRすることが中心となっている。その活動をより強化するためには、会員のニーズに沿った支部活動（研修会、懇親会など）を実施し、会員となることのメリットを伝えていくことが重要である。

調査にご協力いただいた支部長の皆様に深く感謝申し上げます。

**\*参考** アンケート調査票  
**全国保健師長会支部長 各位**  
**全国保健師長会各支部における会員拡大に向けた取組調査**

【支部名】( ) 【回答者氏名】( ) 【メールアドレス】( )

【調査内容】 下記の調査項目について、該当する内容または番号をピンク色の回答欄にご記入ください。回答欄

<p>&lt;会員要件&gt; Q1. 貴支部の加入会員数をご記入ください</p>	<p>⇒</p>	
<p>Q2. 貴支部で、入会している方の役職についてお聞きします</p>	<p>該当する項目の解答欄に1を入力してください。</p>	
	<p>①係長級以上 ⇒</p>	
	<p>②課長補佐級以上 ⇒</p>	
	<p>③課長級以上 ⇒</p>	
	<p>④役職はないが、その部署で保健師の管理的立場の ⇒</p>	
	<p>⑤条件なし 経験の長い人や希望者が入る ⇒</p>	
	<p>⑥その他(下記にご記入ください) ⇒</p>	
<p>&lt;年会費について</p>	<p>年会費(円) ⇒</p>	
<p>Q4. 支部の年会費について、これまで見直した点や、工夫している点があればご記入下さい。(自由記載)</p>	<p>下記にご記入ください。</p>	
<p>Q5. 支部会費を会員の研修等の参加費用の補助に充てていますか。</p>	<p>どれかを選んで解答欄に1を入力してください。</p>	
	<p>①はい ⇒</p>	
	<p>1人当たり何割(いくら)補助していますか。 ⇒</p>	
	<p>②いいえ ⇒</p>	
<p>Q6. 会費について、公費負担している自治体はありますか。</p>	<p>どれかを選んで解答欄に1を入力してください。</p>	
	<p>①はい ⇒</p>	
	<p>どのような名目で公費負担支出しているか、把握していればご記入ください</p>	
	<p>②いいえ ⇒</p>	
<p>Q7. 加入者を増やすための工夫はありますか。</p>	<p>どれかを選んで解答欄に1を入力してください。</p>	
	<p>①はい ⇒</p>	
	<p>②いいえ ⇒</p>	
	<p>①を答えた方、勧誘方法の当てはまるものすべてを選んで解答欄に1を入力してください。</p>	
	<p>・支部で勧誘している ⇒</p>	
	<p>・圏域や市町村で勧誘している ⇒</p>	
	<p>・保健所から勧誘している ⇒</p>	
	<p>・イベント等に参加してもらいメリットを実感してもらう ⇒</p>	
	<p>・勧誘のタイミングの工夫(昇任と同時に声をかけてい ⇒</p>	
	<p>・その他(具体的に下記にご記入ください)</p>	
<p>&lt;支部活動について&gt; Q8. 支部には役員</p>	<p>どれかを選んで解答欄に1を入力してください。</p>	
	<p>①はい ⇒</p>	
	<p>部会名</p>	

会の他に部会活動 はありますか。	②いいえ ⇒	
Q9. 支部で交流会 (親睦会)等の催しを 実施していますか。	どれかを選んで解答欄に1を入力してください。	
	①はい ⇒	
	②いいえ ⇒	
Q10. 魅力ある支部 活動のために工夫し ている事があります か。 (自由記載)	下記にご記入ください。	
<周知啓発につい て>	どれかを選んで解答欄に1を入力してください。	
Q11. ニュースレター (お便り)などを発行 していますか。	①している*(是非、データ提出にご協力ください) 発行回数をご記入ください ⇒	
	②していない ⇒	
	①と答えた場合の対象者は？	
	ア 会員向け ⇒	
	イ 県内市町村等行政機関向け ⇒	
	ウ その他(下記にご記入ください) ⇒	
Q12. ニュースレター の発行の目 的や効果を教えてく ださい。 (自由記載)	下記にご記入ください。	
Q13. 今後ニュース 等の発行の予定が ありますか？	どれかを選んで解答欄に1を入力してください。	
	①はい ⇒	
	②いいえ ⇒	
Q14. 全国保健師長 会作成の加 入促進用パンフレッ トを活用して いますか。	どれかを選んで解答欄に1を入力してください。	
	①はい ⇒	
	②いいえ ⇒	
Q15. 貴支部管内で 別組織(行政・看護 協会以外)で管理職 に特化した研修会等 はありますか。	どれかを選んで解答欄に1を入力してください。	
	①ある(下記にご記入ください) 千葉県が主催する現任教育として毎年実施されている。 ⇒	
	②ない ⇒	
Q16. 市町村保健師 に関心を持ってもら う方法として、よいア イディアがありましたら 記入してください。	ご意見をご記入ください	
Q18. 新規の加入市 町村はありますか？	どれかを選んで解答欄に1を入力してください。	
	①ある ⇒	
	どのような勧誘をされましたか？(下記にご記入ください)	
	管轄保健所の管理職からの勧誘	
	②ない ⇒	
Q19. 支部における	ご意見をご記入ください	



加入促進にむけて  
のご意見をご記入く  
ださい。



～11月22日までに回答願います～

ご協力ありがとうございました。

全国保健師長会市町村部会





